

小学2年2組 音楽科学習指導案

指導者 神 門 洋 子

夏祭りを盛り上げるかけ声のリズムづくりを設定したことは、自分のリズムの面白さに気付いたり、友だちのリズムを聴いて自分のリズムを変化させたりしながら、多様なリズムをつくっていくために有効であったか。

1 題 材 名 夏祭りを盛り上げる音楽をつくろう ～リズムをつなげて楽しもう～

2 題材のねらい

夏祭りを盛り上げるかけ声リズムをつくる活動を通して、リズムの面白さに気付いたり、ドレミパイプの音色や強弱に気を付けて、リズムをつくって表現したりする楽しさを味わうことができる。

3 授業の構想

(1) 次の文章は、「こいぬのビンゴ」を歌って遊んだ日の子どもの日記である。

今日は、友だちのつくったビンゴをしたよ。どれもむずかしかったけど、3つ目のBうんうんうんOがちょっとむずかしかったから、ぼくもこうなふうにかんどはつくりたいです。ぼくは、BうんうんGOってやりたいです。(児童A)

児童Aは、友だちが叩くところを選んだB I N G Oのリズムを楽しんだ。前時は、B I N G Oのアルファベットを、一つずつ休符に置き換えていき、休符のあるリズムの手拍子を楽しんだ。そして、板書のリズムカードを操作したい子が現れ、「うんIうんうんO、BうんNGO、BうんうんうんO」のリズム打ちを子どもが提案した。児童Aは、どのリズムも休符が多いことで、叩きにくく難しいと感じたようで、特に「BうんうんうんO」では、最後のOのタイミングが分かりにくいものだった。しかし、児童Aは、友だちがリズムをつくったことから刺激を受け、今度は自分がつくりたいという気持ちが生まれた。そして、自分もみんなに伝え、一緒にたたきたいと願っている。このように、音楽科では、友だちと関わりながら歌ったり体を動かしたりして遊ぶ過程を設定して、意欲的に取り組んだり音楽のよさに気付いたりしていくことを大切に実践している。

音楽づくりについては、かけ声をリズムにして表現することは初めてである。そこで、本題材では、夏祭りを盛り上げるかけ声のリズムはどうしたらいいか考え、遊びと音楽が結び付く中で、2拍のリズムづくりを即興的に演奏していく。そして、自分や友だちのリズムのよさに気付いたり、かけ声のリズムの多様さを感じ取る力を育てていくことを目指したい。

(2) 本題材は、学習指導要領第1学年及び第2学年の目標を踏まえ、内容A表現(1)のE「互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」、及び(3)イ「音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること」に基づき設定したものである。

本題材では、即興的にリズムをつくる活動を通して、自分のリズムの面白さに気付いたり、合いの手のリズムの面白さを感じたり、友だちのつくったリズムとの違いに気付いたりしながら、自分のリズムを追求してつくっていくことができる活動を進めていく。

子どもたちは、7月にある夏祭りの行事を楽しみにしており、本校オリジナルの「附小音頭」も大切にしている。リズムづくりや旋律づくりに抵抗がなくなるように、子どもたちにとって親しみのある附小音頭のかけ声に注目することで、かけ声を想起し、音楽づくりへ移行できると考える。

本題材は、リズムをつくる楽しさを感じ取るようにするために「おまつりワッショイ」（きたかみじゅん作詞，吉原順作曲）を扱う。お祭りの楽しさが歌やかけ声で表現された楽曲である。範唱によって、身体表現しながら歌ったり，友だちと呼びかけ合うように歌ったりして，合いの手に気付くことができる。また，お祭り風のリズムを繰り返したり，変化させたりして，自分たちの「夏祭りワッショイ」をつくって歌うことができる。そして，リズムをつくったり，友だちのリズムを聞いたりする中で，様々なリズムにふれ，もっとこんなリズムにしたらどうかなという問いが生まれると考える。このような学習活動の中で，リズムをつくる面白さを感じ取りながら，音楽表現する力を高めていけると期待する。

(3) 第一次の導入では，「夏祭り音頭」に出会って，かけ声の「ソレ」の部分が合いの手であることを知る。歌の途中で調子よく入ることで，音楽が盛り上がることを感じ取るであろう。盛り上がるかけ声づくりをしていく中で，「他に盛り上がるかけ声リズムはないのかな」という問いをもち，できたリズムを発表していくことで，即興表現に親しみながらリズムづくりの意欲を高めていく。好きなリズムを見つけたり，多くのリズムを子どもたち自身で作りだしていく場にしていきたい。この時，ドレミパイプを使用し，言葉のリズムとリズム打ちがつながるようにしていく。かけ声リズムがたくさんできたら，教師が提案した「夏祭りワッショイ」を聴いて，いろいろなかけ声リズムをつくっていく。

第二次では，第一次でつくったリズムを参考にしながら，変化していくリズムづくりをしていく。その際，言葉のリズムを生かして音の長さや休符を工夫していく。そして，三つのリズムをつなげていき，楽しく演奏していく。

本時は，第3時である。前時から，「夏祭りワッショイ」をもっと多様なリズムにしたら盛り上がると考えているであろう。そこで，本時のめあてを「おやすみやくりかえしのわざをつかって，もっと盛り上がるパワーアップ夏祭りワッショイをつくろう」と設定する。子どもたちは，自分の気に入ったリズムを友だちと一緒に演奏してみたいと思うであろう。そこで，三人や六人のグループで試していく。自分の気に入ったリズムも，友だちと一緒に演奏することで，自分のリズムが変わっていき，リズムをつくっていく楽しさを感じるであろう。また，友だちのリズムに触れ，リズムの多様性に気付くことにつながっていく。このように，自分・友だち・楽曲と対話をしていく学習形態をもつことで，即興的な表現に意欲をもって取り組み，今までの自分の音楽の幅が広がっていくものと期待する。

4 展開計画（全4時間 本時3／4）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は，学び合い）
1	夏祭りのかけ声リズムで遊ぼう。	1 2	・ 附小音頭の旋律にある合いの手を聴き取り，それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，夏祭りにふさわしい表現を工夫している。 ・ 「夏祭りワッショイ」の範唱を聴いて，いろいろなかけ声リズムをつくる。 もっと盛り上がるかけ声にするには，どうしたらいいか考える。
2	リズムをつなげて，「夏祭りワッショイ」をつくろう。	③ 4	・ もっと盛り上がる「夏祭りワッショイ」にするための自分の考えを話合う。 ・ 三人や六人のグループで見つかったり考えたりしたリズムを試し，発表する。 ・ 自分のつくったリズムをつなげて表現する。 ・ ドレミパイプの音色や強弱を工夫して表現する。

5 本時の学習

(1) ねらい

休符を入れたり繰り返したりして、かけ声リズムが面白くなることに気付きながら、自分のリズムをつくって表現することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. かけ声リレーをして、リズム即興遊びをする。 ・「ソーレー」「ドンドコ」など 2. 夏祭りを盛り上げるためには、リズムをどうしていくとよいか、考えを出し合う。 ・友だちと違うリズムにしたい。 ・休符を入れたい。 3. 本時のめあてを設定する。	・全体→個→全体→個の順で行い、拍の流れを感じるよう教師は手拍子をうつ。 ・子どもたちの「もっとこうしたい。」という願いを広げ、本時のめあてにつなげていく。 ・休符や繰り返しに注目していくことで、多様なリズムが生まれることに気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> おやすみやりかえしのわざをつかって、もっと盛り上がるパワーアップ夏祭りワッショイをつくらう </div>	
4. グループで試してみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 三人で試して見る </div> ・お休みを入れるとむずかしいなあ。 ・新しいリズムは楽しいなあ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 六人グループで試してみる </div> ・〇〇くんのリズム、楽しいなあ。 5. 自分たちの演奏を発表したり、友だちの演奏を聴き合ったりする。 ・〇〇くんのリズムでやると、盛り上がったよ。 ・〇班のリズム、はじめてきいたよ。 6. 本時の学習を振り返る。 ・友だちのリズムは、「ドドン」だから、ぼくはうんを入れて「ウンソレ」にしたらもりあがったよ。 ・友だちとちがうリズムにするために、「たたたたん」と「た」をたくさんふやしたら楽しかったよ。	・休符の入れ方に困っているグループには、教師が模範演奏することで、モデルを示す。 ・教師はクラベスで拍をたたき、演奏を支える。 ・近くのグループが合体して六人グループをつくり、人数が増えることで、多様なリズムに触れることができるようにする。 ・自分のリズムの変容をワークシートに書き込んでいくことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 評価の観点（音楽的な感受や表現の工夫） 休符から盛り上がるリズムを見付けたり、変えたりして、リズムづくりの工夫をしている。 【評価方法 観察・つぶやき・発言・演奏の様子】 支援 繰り返したり休符を入れるなど助言する </div> ・音の長さや休符をどう工夫をしたか、それによってどうよくなったか、感想を聞き、盛り上がるようにリズムを工夫した姿を価値付けていく。 ・自分の変容、友だちのよさ、楽曲について振り返るように声をかける。

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎自分のリズムに休符やくりかえしを入れて変化させ、リズムの面白さに気付く姿

◎友だちのリズムを聴いたり叩いたりして、自分と違うリズムにふれ、叩けるリズムがふえていく喜びを感じる姿